

我が社の得意技 ④
創業300年 脈々と受け継がれる職人魂
 株式会社豊和工業 (丹原町田野上方)

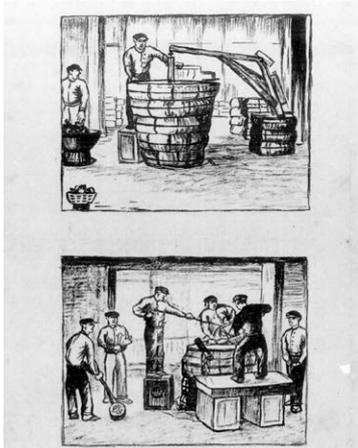
「鑄物」とは、溶かした金属を型に流し込み、固めて出来上がった金属のことである。この一連の加工方法は「鑄造」技術と呼ばれ、数千年前から存在する最古のものづくり技術である。

丹原町田野上方に、鑄物専門の企業が集まって形成される全国的にも珍しい「愛媛鉄鉄鑄物工業団地」がある。

その一角に、創業304年余りの歴史ある企業、(株)豊和工業は立地している。正徳2(1712)年に、現在の松山市で松山藩御用鑄物匠として操業を開始した同社。昭和初期には松山市平和通りで順



▲鑄物団地内にある社屋



▲昭和7年頃の様子(スケッチ)

調に事業を営んでいたが、震災により工場が焼失してしまふ。一時は会社存続の危機に直面したが、この最悪の状況にも社員一丸となって会社の再建に成功した。その後、昭和50年に鑄物団地に工場を移転し、現在に至っている。

創業時の鑄物の用途は、鍋や茶釜、五右衛門風呂、寺院の金具などで、当時の生活には欠かせないものであった。現在では、主に建設機械、荷役運搬機、油圧機械用の部品を製造している。特に100キログラムほどの中型鑄物を得意とし、高品質な製品を多種・少量生産で提供。また近年、取引先から求められる

複雑かつ大型の製品を製造できる体制を整えるなど、ニーズに迅速に対応し、他社との差別化を図っている。

■徹底したQCD実現をめざす

現在、同社が最も注力しているのが、Q(品質)C(コスト)D(納期)の改善である。品質面に関しては、成分分析や強度測定のほか、鑄物内部の「巣」と呼ばれる空洞をカラーチェックにより事前

に切断して確認を行うなど、長年培ったノウハウにより不良品の早期発見を可能としている。また、徹底した生産効率の改善によるコストダウンを図るとともに、少人数ならではの小回りの利いた生産体制を生かし、取引先から求められる納期短縮などに対して、きめ細かな対応を行っている。

QCDの改善は、製造業にとって新規顧客の獲得や受注増に直結するため、競争力の強化という点において最も重要な要素である。改善のためには、社員一人一人が常に



▲約1500度の鉄を鑄込む

顧客目線で考えなければならず、大変な労力を必要とするが、豊田社長を筆頭に挑戦し続けている。

■環境に配慮した工場づくり

鑄物の製造工程は、砂を押し固めた鑄型に溶けた鉄(約1500度)を流し込んで製品を造るため、工場内は鉄砂が多く、鉄を溶かす際の煙などで工場が黒く汚れてしまう。同社では、砂・煙が発生する箇所に集じん機を増設するなど、鑄物屋らしからぬクリーンな職場をめざしており、環境に配慮した工場作りを実現させる計画である。

サイクスでは、生産体制の改善や職場環境の改善など、企業の抱えるさまざまな経営課題に対する技術的な助言を行っています。

サイクスからの事業案内
特産品の通信販売にかかる送料を補助します

インターネットやアクセスなどで通信販売を行っている愛媛県内の事業者・農業者などに対し、西条市の特産品を消費者へ発送する際にかかる送料を、1500円を上限として市が補助します。

補助対象となる特産品は、原材料に西条産の農産物などを使用されるものか、西条市らしさがあり、西条市をPRできるもので、サイクスに申請して認定を受けたものに限ります。認定の申請は随時受け付けていますので、お申し込みください。

市民の方は、市内外に贈り物をする際に、ぜひこれらの特産品をご活用ください。認定を受けた特産品の情報は、サイクスのホームページに掲載しています。

■助成期間

7月1日(木)〜平成28年3月10日(木)の発送分
 ※予算がなくなり次第終了します。